
ミッションコンプリーター

サーズィ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミッションコンプリーター

【Nコード】

N9731I

【作者名】

サースィ

【あらすじ】

世界中で平和を守るミッションコンプリーター。

そんなコンプリーターになった新米のサイアスは自分があまり活躍できないことに苛立ちを感じていた。

そんなある日、自分よりもずっと強い『上官』との経闘が決まって…。昔から誰もが憧れる夢を叶えること、それを元気に痛快に見せ付けてくれる二人に期待大！

序章 上官登場！（前書き）

この物語はラブコメであり、シリアスであり、ファンタジーです。明らかにつまらない、おもしろくない、感動しない、どうしてこんな物を書いたのかと言う人がいると思いますが、出来れば寛大な評価をしてもらえたら幸いです。尚、この作はつまらない人生を歩んでいる全ての人に向けて書きたいなあという思いと書くさいに悔いを残したくないなあという思いから出来た物語であり、ほとんどがライトノベル風味です。ライトノベルがお嫌いな方はお控えした方がいいかもしれません。

序章 上官登場！

『ミッション』それはこの世界での仕事であり生き甲斐だ。

群がるモンスターから人々を守る：そんな夢に憧れて俺はミッションコンプリーター（通称コンプリーター）になった。コンプリーターとは各町に置かれる腕っ節が強い人間が町と契約し、お金を貰うことによって生計を立てる職業だ。一見ポピュラーな職業だけどこの世界では山のように溢れている。

と言っても、力が強い人間なら誰でもなれるというわけではない。意外と難しい職業なのだ。だからこの職業に付けた時、俺は本当に嬉しかったんだけど…。

遅くなったが自己紹介。俺の名前はサイアス・モルド、巨大な都市カースメルドに属するランク87のコンプリーターだ。：そうランク50、下っ端なのだ。コンプリーターは完全ランク制、1に近づくごとにランクは上がるんだけど俺はいまだに50。

こんな調子なので俺にくるミッションも知れたもの、りんご畑の見張りや都市の一角で巡回監視：あとはたまに魔王壁の見張りをやらしてもらう事があるけど、まあそんな所。こんなんじゃ俺の夢なんて夢のまた夢なんだろうなあ。

で、今は何をしているかと言うと『トレーニング』である。これはもちろんミッションでもなんでもない。

自分の実力を高めるためにやってるだけ。両方合わせて80キロのバーベルを担いでのスクワット。結構足にくるがランク12のつわものなどは500キロの大型モンスターを一蹴りでぶっ飛ばすというから恐るものである。

けど今日の俺の気分はそんなことでは暗くならない！実は今日から『上官』を付けてもらえることになっているのだ。『上官』はランク20以内のエリートコンプリーターで俺とはまったく比べ物にならない実力者らしい。

しかも本部からも信頼されている超古株。そんな人に教えてもらえるきっかけとなったのはつい最近のミッションで知り合った一人の女性によるものである。

それはいつもとは違う村はずれのりんご畑の見張り任務の時だ。
：またりんご畑の見張りということは置いて、その時りんごを小モンスターから守ったことが今回のけんを引き起こしてくれた。
お礼を言うりんご農家さんの隣にいた女性
がふとこんなことを言った。

「君、弱いね。」

「なっ！」

一瞬怒りそうになるが、よく考えるとまったくその通りなので言い返せない。その様子を見た女性は微笑んでこう言った。

「ねえ、強くしてあげようか。」

「……え？」

すぐには何を言われたのかよくわからなかった。

「だから、あなたが強くなれるように私の知り合いに頼んであげようか？」

「で、でもどうしてそんな……」

「だって君、まだ若いのにそんな顔するんだもん。普通の子だったら畑を守った後だし、すぐに『自分は弱くない。だって畑だって守った』って言い返してくるよ。」

また微笑む女性。言ってることは確かに正解なんだろうけど……。

「そんなの、俺が謙虚なだけかもしれないじゃないか。それにあっただって、そんなことするメリットはないし。」

「メリットならあるわ。あなたが強くなる。」

彼女が見せた名刺に俺はしばし目を丸くした。

「ミッションコンプリーター協会：理事長！？」

「そう、私は君が所属してるカースメルドミッションコンプリーター協会の理事長をやらしてもらってるわ。」

「理事長って…あ。」

思い出した。この都市の理事長は賢くて美しい才色兼備の女性だった。…それにしてもこの人がなあ。

って理事長!!!!!!???

「そ、そ、そんな人だったなんてー! すすいません。」

途端にかしこまる自分。そのあからさまな態度を見て再び彼女は笑った。

「あら、いいのよ。私、君みたいなボーヤが好きだから。」

「ボーヤって。」

「そんなことよりどうするの? 強くなりたくないの?」

「それは…その、」

答えは恥ずかしながら決まっていた。

そんなこんなで今日は俺を強くしてくれる『上官』がくるのだ。どうやらあのりんご畑のりんごを好んでいる理事長の知り合いらしいのだが、理事長推薦のコンプリーターなら凄い人なのだろう。

と、ついにその時はやってきた。瞬間移動ゲートから光がほとばしり、期待の『上官』がついに…。

「よろしく」

…と思ったら小っこい女の子が送られてきた。白い髪に小さめのりぼん、かわいいワンピースを着て少女はかわいい笑顔を浮かべている。迷子だろうか?

「きみ、何処から来たの? お家は?」

そう言ったことを俺はすぐに後悔することになった。何故なら少女が不満そうに頬を膨らませてこう言い放ったからだ。

「何言ってるのー、私は今日からあんたの『上官』になるレミング・ティスティー。ランク7のミッシェンコンプリーターよ。」

これは…。これは…。これは…?

「一体どういうことだ――――！？」

トレーニングルームで俺の悲鳴がこだまりました。

…どうやらこれから大変そうだ。

序章 上官登場！（後書き）

序章と言うことで僕の序章の印象の『少なめ』をやってみました。
この物語が長続きすることを祈っています。また、この次1章から
この物語はぐっと長く作られます。

そのため少し時間が掛かってしまう可能性がありますがご了承ください。

僕はこういうノベル風味が好きで、本当はもっとのほほほんと
した物語が大好きなのです。なのでこの物語にはできれば改善点だ
けを教えて貰えたら幸いです。

それではここまで読んでくれた方に感謝と幸運を。

あ、後この他にも一応執筆中の『混沌の輪廻の世界』もお暇であつ
たら読んでみてください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9731i/>

ミッションコンプリーター

2010年10月8日15時22分発行